

ひびき

教育目標：「なかよく かしく たくましく」
3本柱：さわやか挨拶 聞き方・話し方名人 いきいき運動

多治見市立共栄小学校 H29. 7. 20

「よりよいひとりだち」

校長 楯 明夫

4月から4カ月、子どもたちは、挨拶、ハピポカ言葉、靴の整頓等、子どもたち自身が大切にし、リーダーを中心に取り組んでくれました。良い姿がたくさん見られたことをうれしく思っています。反対に、先日もお知らせしましたように水着がなくなるという悲しい出来事もありました。安全面、環境面でまだまだ課題はがあると痛感しています。「心」を育て、一人一人が幸せに、そしてよりよい「ひとりだち」ができるように願い、努力していきたいと思っています。

いよいよ夏休みが始まります。事件や事故に巻き込まれないよう安全な生活を心がけ、元気に笑顔で8月29日に会えることを願っています。交通事故、不審者、子どもたちの身の回りにはまだまだ大人が守らなくてはいけないことが山ほどあります。夏休みは、家庭へ帰ります。4月にお願いした「自分のことは自分でするように見守る」「自分以外の人のために役立つ姿はおおいに誉める」「自分で考えさせ、判断させる機会を増やす」「温かな言葉をたくさん投げかける」「自分や他人の心や体を傷つける言動は決して許さない」ことがキーワードであると思っています。そんな風に子どもたちを見守り、充実した時間が過ごせるようご支援のほどよろしくお願いします。

先日、内外教育という教育雑誌に聞きなれない言葉が出ていました。「エスプリ」と「ガイスト」という言葉です。それはドイツ人とフランス人の思想の違いで、例えば交通信号順守の考え方はフランス人とドイツ人で違うのだそうです。ドイツ人は、何も通っていない場所でも赤信号で立ち止まるが、フランス人は、犬の子一匹通っていない道で信号待ちするのは滑稽であると考えたという記事でした。ドイツ人の思想をガイスト、フランス人の指導をエスプリというそうです。社会や文化によって考え方は、同じではないことがわかります。ふと自分を振り返ってみると、酔っぱらって、夜中に家に帰るとき、勝手にフランス人になっちゃってることがあるんじゃないか…と思ったりします。でもそれはいけないことであるというのが日本です。日本は法治国家ですから、当然、道路交通法という法律があり、私たちは守る義務があります。法律は、自分や他人の安全や財産等を守るためにつくられます。今、子どもたちの将来を考えた時、小学生、中学生に必要なのは、ルールを頭ごなしに守らせることより、ルールの意味を知り、ルールを守る力をつけることであると思います。また、守る中で、気に入らなければ、ルールの不合理さを考え、議論して、周りの人と協力し、（互いの意見に耳を傾けながら）改善したり、作ったり、なくしたりする力が必要なのです。考え、議論して、正しい確固たる判断力をつけていくことがこれからの時代に必要ではないでしょうか。大人でも、時々、「これくらいなら…」という自分本位な考えがおこります。その時、よく考えて、客観的に意味を考え「やはり、それはいけないことだ」と立ち止まる力や「こういう改善が必要だ」と考える力が大人にはあるはずですが。笑い話ですが、廊下を走ってはいけない！と指導した先生が走ってるなんてことはよくあります。「先生も走るとるやん！」という言葉にどう反応するのか、時と場に応じて「ごめんね」と過ちを認めることも「救急車や消防車は、赤信号でも走り抜けるでしょ？」と大人と子どもの立場の違いを教えたりすることも大切です。「ひとりだち」「よりよいひとりだち」のために、しっかりと考えを育てる人に育てていくために、ご家庭でもニュースや新聞で話題になっている様々な出来事を話題にして、話し合ってみてはいかがでしょうか。

